

～博多屋・本店～



「バスが来た！」少しどんよりと曇った福岡は西鉄・久留米駅のロータリー！

行き交う車群の中に、一つのワームホールが出来た！悠々しく颯爽と出現したのは、2ヶ月ほど前から私たちが、博多屋・本店にいただいた出演依頼の催しや、次の現場への移動にレンタルしたバスの中で、メンバーが自然と口にしていた言葉「もっと忙しくなって、早く自家用のバ

スが持てるようになりたいよね」。

誰よりも深く、この思いを持ち始めたのが「リュウジさん」。男性メンバーの一人だったのです。

そして、何日かして突然

：彼は何軒もの中古やセーターに出かけていき、そして理想の車「博多屋・本店 専用」のプライベートシャトルを手に入れることになったのです。

10月14日（日）電車で集まってきた私たちの前に表れた、運転席にリュウジさんを乗せたバス。嬉しさを隠しきれなかった私たちは全員：わらべこころ「童心」丸出し



で、バスの周りを触ったり、のぞき込んだり、38人乗りのマイクロバスは、ちゃんと自分の名前をその体の前後左右に少し控えめに施し、

歌』の文字をリズムカルに泳がせた、ホントにホントに愛くるしい奴だったのです。

乗り込んでからもしばらくは大騒ぎ。自然と目を潤ませて、それぞれの顔を見合わせ、大きく頷き合ってまた一つ、全員の夢に強い絆の生まれたことを確信したのです。

二週間後の26日と27日、博多屋・本店の母体、グループニューウインドの企画「日

本歌謡大学と、たきのえいじ音楽塾」開催のため、福岡入りされたたきの先生にも同乗していただき、市内を小観光。音楽塾の中でも、このことを話題にしていたくなどなど、最後には「このバスは、博多屋・本店にとって、ドラえもんへのどこでもドアのように、限らない夢の扉になることでしょう」。しばらく言葉が止まり、メガネの端から涙を拭いながら言われたのです。

